

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	心理学 I	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	八木 順子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 ① 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法 ②				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用教材	プリントを配布いたします。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション・心理学について
第2回	自分自身を知る
第3回	からだところ
第4回	身体関連障害
第5回	発達について
第6回	こころの発達Ⅰ（胎児期・新生児期）
第7回	こころの発達Ⅱ（乳児期・幼児期）
第8回	こころの発達Ⅲ（学童期）
第9回	神経発達障害
第10回	児童虐待
第11回	こころの発達Ⅳ（青年期）
第12回	不安障害
第13回	摂食障害
第14回	コミュニケーション技法Ⅰ
第15回	まとめ

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	心理学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	八木順子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用教材	プリントを配布いたします。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	性的違和
第2回	統合失調症スペクトラム
第3回	強迫関連障害
第4回	うつ病・双極性障害
第5回	パーソナリティ障害
第6回	こころの発達Ⅴ（成人期）・物質関連障害及び嗜癖
第7回	ドメスティック・バイオレンス
第8回	外傷後ストレス障害・解離性障害
第9回	こころの発達Ⅵ（老年期）・神経認知障害
第10回	老い・死・看取り
第11回	スポーツ心理学Ⅰ
第12回	スポーツ心理学Ⅱ
第13回	倫理
第14回	まとめ
第15回	コミュニケーション技法Ⅱ

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	保健概論 I	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	愛知 秀一	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師になるのに必要な運動器の名称と機能を体感する 運動機能向上のメカニズムを理解し実践する				
到達目標	主要な骨格筋の名称を理解しストレッチ・トレーニングを通じて体感する 機能訓練指導員として必要な運動処方を理解し体験する 将来、患者さんの指導管理に必要な健康体操を体感する				
成績評価	出席50% 授業内の課題50%による				
使用教材	体操療法オールブック 編集：高平尚伸 Medical View				
留意点					

回数	授業計画
第1回	授業概要
第2回	運動器について
第3回	ストレッチについて
第4回	セルフストレッチ 上半身
第5回	セルフストレッチ 下半身
第6回	パートナーストレッチ 上半身
第7回	パートナーストレッチ 下半身
第8回	トレーニング理論 機能訓練について
第9回	レジスタンストレーニング①
第10回	レジスタンストレーニング②
第11回	ロコモ
第12回	有酸素トレーニング①
第13回	有酸素トレーニング②
第14回	バランストレーニング①
第15回	バランストレーニング

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	保健概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	2 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	無	時間数	30 時間
学修内容	柔道整復師になるのに必要な運動器の名称と機能を体感する 運動機能向上のメカニズムを理解し実践する				
到達目標	主要な骨格筋の名称を理解しストレッチ・トレーニングを通じて体感する 機能訓練指導員として必要な運動処方を理解し体験する 将来、患者さんの指導管理に必要となる健康体操を体感する				
成績評価	出席 50% 授業内の課題 50%による				
使用教材	体操療法オールブック 編集：高平尚伸 Medical View				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	指導管理について
第 2 回	肩こり体操
第 3 回	肩こり体操
第 4 回	肩こり体操
第 5 回	腰痛体操
第 6 回	腰痛体操
第 7 回	腰痛体操
第 8 回	膝痛体操
第 9 回	膝痛体操
第 10 回	各種テーピング
第 11 回	各種テーピング
第 12 回	各種テーピング
第 13 回	各種テーピング
第 14 回	各種テーピング
第 15 回	総合復習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部								
		対象学年	1年	学期	後期						
科目名	統計学	科目の別	講義	単位数	2						
担当教員	平松裕紀子	実務経験	無	時間数	30						
学修内容	将来、社会に出ると様々なデータを目にする機会が多々ある。そんな時、それを鵜呑みにしたり、漠然と見たりするのではなく、その数字やグラフから読み取るべきことを見抜く洞察力を養う。										
到達目標	統計の専門用語 平均、メディアン、中央点、モード、分散、標準偏差について説明でき、実際に計算して値を求めることができる。 検定の手順、方法を理解し、場合によっては異なる検定方法を正しく選べるようにする。										
成績評価	<table border="0"> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>毎回のレポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>出席点</td> <td>15%</td> </tr> </table>					定期試験	70%	毎回のレポート	15%	出席点	15%
定期試験	70%										
毎回のレポート	15%										
出席点	15%										
使用教材	社会科学系学生のための統計学 佐々木政文著（共立出版株式会社）										
留意点											

回数	授業計画
第1回	第1章 確率統計の基本概念（実力テストを含む）
第2回	第2章 データの処理（I）(1)母集団と標本
第3回	〃 (2)データの整理
第4回	〃 (3)データの特性値
第5回	〃 (4)プリント学習
第6回	第5章 連続学分布 (1)正規分布（I）
第7回	〃 (2) 〃 (III)
第8回	〃 (3)教科書以外の問題
第9回	〃 (4)四分位範囲と箱ひげ図
第10回	〃 (5) 〃
第11回	第10章 検定 (1)検定の手順
第12回	〃 (2)平均の検定
第13回	〃 (3)平均の差の検定
第14回	〃 (4)差の平均の検定
第15回	〃 (5)試験対策プリントで学習

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	英語 I	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	関戸 えい子・諸岡 淳子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として、将来、社会に出た時に医療現場で出会う可能性の高い医療単語等の一般的知識を学ぶ。				
到達目標	柔道整復師の仕事の主部分である、骨格系の学術用語、略語、学術用語を構成する合成語の構造について理解する。				
成績評価	定期試験（80 点満点） 残り 20 点は 10 点分が平常点（出席状態）。10 点分を授業中の態度点とします。 （後者の態度点は授業の進行を妨げる迷惑行為を減点対象とする。）				
使用教材	プリントを使って授業をすすめます。 参考図書としては「新版 医学英語」「旧 医学英語」				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス 医学用語の構造について。
第 2 回	複合語と合成語。カルテの形式と項目について。
第 3 回	よく出合う医療関係の英語
第 4 回	よく出合う医療関係の英語
第 5 回	医療略語について
第 6 回	疾患別の痛みの表現について
第 7 回	骨格系（骨名について）の学習。
第 8 回	骨格系（骨名について）の学習。
第 9 回	骨格系（関節名について）の学習。
第 10 回	骨格系（関節名について）の学習。
第 11 回	骨名の問題演習
第 12 回	骨名の問題演習
第 13 回	体の方向、位置、運動を表す形容詞と名詞。
第 14 回	医療英会話
第 15 回	総復習

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	英語 II	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	関戸 えい子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として、将来、社会に出た時に医療現場で会う可能性の高い医療単語等の一般的知識を学ぶ。				
到達目標	柔道整復師の仕事の主部分である、関節、筋肉、神経系の学術用語、略語、学術用語を構成する合成語の構造について理解する。				
成績評価	定期試験（80 点満点） 残り 20 点は 10 点分が平常点（出席状態）。10 点分を授業中の態度点とします。 （後者の態度点は授業の進行を妨げる迷惑行為を減点対象とする。）				
使用教材	プリントを使って授業をすすめます。 参考図書としては「新版 医学英語」「旧 医学英語」				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	Arthroscope で膝 ope を受けた患者のリハビリノート
第 2 回	Arthroscope で膝 ope を受けた患者のリハビリノート
第 3 回	筋肉名について（筋肉の形状等から覚える方法の解説）
第 4 回	筋肉名について（筋肉の形状等から覚える方法の解説）
第 5 回	筋肉の問題演習
第 6 回	筋肉の問題演習
第 7 回	患者との医療英会話
第 8 回	患者との医療英会話
第 9 回	神経系（神経名について）の学習
第 10 回	神経系（神経名について）の学習
第 11 回	神経に関する問題演習
第 12 回	神経に関する問題演習
第 13 回	神経に関する問題演習
第 14 回	総復習
第 15 回	総復習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	解剖学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な頭頸部から上肢の筋・骨格系の知識を修得する。				
到達目標	骨およびその部位名称が理解できること。筋の起始、停止、支配神経および作用について、骨格模型を用いて説明できること。体表から触れる構造については、正確に触察できること。				
成績評価	中間試験 40% 期末試験 60%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） コメディカルのための臨床解剖学サブノート（骨格・筋）				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 骨格模型や体表触察を通じて、筋骨格系の3次元的な理解を心がけること。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	解剖学用語
第3回	肩甲帯（鎖骨・肩甲骨）
第4回	上腕骨、肩関節
第5回	橈骨・尺骨、肘関節
第6回	手指の骨、手関節
第7回	中間試験（上肢の骨および関節について）
第8回	背部の筋（浅背筋と深背筋）
第9回	胸部の筋（浅胸筋と深胸筋）
第10回	肩甲筋、上腕の筋
第11回	前腕の筋
第12回	中間試験（背部の筋～前腕の筋について）
第13回	手の筋
第14回	頭部・頸部の骨
第15回	頭部・頸部の筋



# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	解剖学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として患者に施術を行う上で、必要不可欠な下肢の骨格系および筋系の解剖学的知識を習得する				
到達目標	下肢の骨・筋の構造と機能について、説明することができる 運動器系と神経系、循環器系の知識を統合し、説明することができる 柔道整復師が取り扱う障害について、障害部位の構造を正確に説明することができる				
成績評価	定期試験（100％） 形式；筆記試験				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版）</li> <li>・コメディカルのための臨床解剖学サブノート</li> <li>・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス）</li> <li>・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院）</li> </ul>				
留意点	※欠席は極力控えるよう喚起する。 ※授業や試験には、医療人としての適切な態度で臨むように指導する				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション、解剖学総論
第2回	骨格系総論
第3回	骨盤 サブノート
第4回	大腿骨・股関節
第5回	下腿の骨・膝関節
第6回	足の骨・距腿関節
第7回	骨盤の全景
第8回	脊柱・胸郭
第9回	骨格系総復習
第10回	筋系総論
第11回	下肢の筋 骨盤筋
第12回	大腿の筋
第13回	下腿の筋
第14回	腹部の筋
第15回	筋系総復習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	解剖学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	畑山直之、福重 香	実務経験	無	時間数	30
学修内容	人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。				
到達目標	人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 脈管系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。				
成績評価	定期試験、小テスト、レポート、学習態度				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 「解剖学」医歯薬出版株式会社				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	脈管系 総論
第2回	心臓Ⅰ 位置と形態、構造、弁
第3回	心臓Ⅱ 心壁、心臓の脈管と神経、心膜
第4回	動脈系Ⅰ 大動脈、頭頸部の動脈（1）
第5回	動脈系Ⅱ 頭頸部の動脈（2）
第6回	動脈系Ⅲ 上肢の動脈
第7回	動脈系Ⅳ 胸大動脈、腹大動脈（1）
第8回	動脈系Ⅴ 腹大動脈（2）
第9回	動脈系Ⅵ 骨盤部の動脈、下肢の動脈
第10回	静脈系Ⅰ 上大静脈（1）
第11回	静脈系Ⅱ 上大静脈（2）
第12回	静脈系Ⅲ 下大静脈（1）、門脈
第13回	静脈系Ⅳ 下大静脈（2）
第14回	リンパ系、胎児循環
第15回	内臓系 消化器Ⅰ 総論、口（1）

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	解剖学Ⅳ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	畑山直之、福重 香	実務経験	無	時間数	30
学修内容	人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。				
到達目標	人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 内臓系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。				
成績評価	定期試験、小テスト、レポート、学習態度				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 「解剖学」医歯薬出版株式会社				
留意点					

回数	授業計画
第1回	消化器Ⅱ 口(2)
第2回	消化器Ⅲ 咽頭、食道、胃
第3回	消化器Ⅳ 小腸
第4回	消化器Ⅴ 大腸、肝臓
第5回	消化器Ⅵ 胆嚢、膵臓、腹膜
第6回	呼吸器Ⅰ 総論、鼻、喉頭
第7回	呼吸器Ⅱ 気管・気管支、肺、胸膜
第8回	泌尿器Ⅰ 総論、腎臓
第9回	泌尿器Ⅱ 尿管、膀胱、尿道
第10回	生殖器Ⅰ 総論、男性生殖器(1)
第11回	生殖器Ⅱ 男性生殖器(2)(3)
第12回	生殖器Ⅲ 女性生殖器(1)
第13回	生殖器Ⅳ 女性生殖器(2)
第14回	生殖器Ⅴ 女性生殖器(3)
第15回	内分泌系 内分泌臓器

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	解剖学V	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。				
到達目標	神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。				
成績評価	定期試験（100%）				
使用教材	コメディカルのための臨床解剖学サブノート プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	解剖学総論
第2回	神経系総論
第3回	中枢神経系総論
第4回	中枢神経系総論
第5回	脊髄
第6回	脊髄
第7回	脊髄
第8回	脳幹
第9回	脳幹
第10回	脳幹
第11回	間脳
第12回	小脳
第13回	大脳皮質
第14回	大脳皮質
第15回	髄膜

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	解剖学VI	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。				
到達目標	神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。				
成績評価	定期試験（100%）				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	中枢神経系の脈管
第2回	中枢神経系の脈管
第3回	中枢神経系の脈管
第4回	伝導路
第5回	伝導路
第6回	伝導路
第7回	伝導路
第8回	伝導路
第9回	脳神経
第10回	脳神経
第11回	脳神経
第12回	脊髄神経
第13回	脊髄神経
第14回	脊髄神経
第15回	脊髄神経

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	生理学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	小野 健治	実務経験	無	時間数	30
学修内容	生理学とはどのような学問か理解し、神経細胞や筋細胞の基本的な性質や機能についての知識を習得する。				
到達目標	生体がどのように構成されているか理解する。神経細胞の構造を理解する。 神経細胞の機能とその機序について説明することができる。 筋細胞の構造や機能を理解し、骨格筋、平滑筋、心筋の違いを説明することができる。				
成績評価	定期試験80%と小テスト20%の計100%で評価する。 小テストは、前回授業の復習を兼ねた内容とする。 定期試験は、前期授業内容の全範囲から出題する。				
使用教材	生理学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 トートラ人体の構造と機能 丸善出版 授業はスライドを用いて行い、授業時にはスライドを印刷したレジメを配布する。				
留意点	授業開始時に小テストを行うので、原則遅刻してこないこと。(期末評価に影響します。) 生理学の内容は解剖学など他の教科にもつながっていく内容が多い。また、前期の授業内容は後期の授業内容のベースとなるので、授業ごとに復習をする習慣を身につけしっかり理解を深める努力をしてください。				

回数	授業計画
第1回	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス
第2回	生理学の基礎：からだの化学的構成1
第3回	生理学の基礎：からだの化学的構成2
第4回	生理学の基礎：細胞の機能的構造
第5回	生理学の基礎：受動輸送、能動輸送、膜動輸送
第6回	神経の基本的機能：神経細胞の形態、静止膜電位
第7回	神経の基本的機能：活動電位、閾刺激、全か無かの法則
第8回	神経の基本的機能：不応期、イオンチャネル
第9回	神経の基本的機能：興奮の伝導、複合活動電位
第10回	神経の基本的機能：興奮の伝達
第11回	筋肉の機能：筋の種類、骨格筋の構造
第12回	筋肉の機能：筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ
第13回	筋肉の機能：骨格筋の収縮の仕方、筋肉の長さや張力との関係
第14回	筋肉の機能：筋収縮のエネルギー、筋の熱発生、筋電図
第15回	筋肉の機能：平滑筋、心筋

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	生理学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	小野 健治	実務経験	無	時間数	30
学修内容	生体内において神経回路がどのようにはりめぐらされ、体内の機能をどのようにコントロールしているのかを理解し、他人に説明できる程度の知識を養う。				
到達目標	<p>中枢神経系と末梢神経系の機能と相違について説明することができる。</p> <p>体性神経系と自律神経系の神経回路と機能について説明することができる。</p> <p>神経回路の単なる繋がり方だけではなく、神経回路網を介した脳や脊髄部位ごとの機能的な役割や機序について理解する。</p>				
成績評価	定期試験 80%と小テスト20%の計100%で評価する。小テストは、前回授業の復習を兼ねた内容とする。定期試験は、後期授業内容の全範囲から出題する。				
使用教材	<p>生理学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂</p> <p>トートラ人体の構造と機能 丸善出版</p> <p>授業はスライドを用いて行い、授業時にはスライドを印刷したレジメを配布する。</p>				
留意点	<p>授業開始時に小テストを行うので、原則遅刻してこないこと。(期末評価に影響します。)</p> <p>前期と比べると授業内容が多く複雑になっていくので、授業ごとに必ず復習を行ってください。後期内容の理解には前期内容の理解が必須ですので、必要に応じて前期内容も復習してください。</p>				

回数	授業計画
第1回	神経系の機能：神経系の成り立ち1
第2回	神経系の機能：神経系の成り立ち2
第3回	神経系の機能：内蔵機能調節1
第4回	神経系の機能：内蔵機能調節2
第5回	神経系の機能：姿勢と運動の調節1
第6回	神経系の機能：姿勢と運動の調節2
第7回	神経系の機能：姿勢と運動の調節3
第8回	神経系の機能：姿勢と運動の調節4
第9回	神経系の機能：高次機能1
第10回	神経系の機能：高次機能2
第11回	感覚の生理学：感覚の種類、感覚の一般的性質
第12回	感覚の生理学：体性感覚
第13回	感覚の生理学：内臓感覚、嗅覚、味覚
第14回	感覚の生理学：聴覚、前庭感覚
第15回	感覚の生理学：視覚

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	生理学Ⅲ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	佐竹 裕孝	実務経験	無	時間数	30
学修内容	ヒトの身体がどのように働いて、その正常な機能を恒常的に維持しているかを器官系統ごとに学修し、その役割を理解する。また各器官系が互いに関連して働いていること統合的に理解し、臨床科目の礎となる人体の生理学的な基礎知識を習得する。				
到達目標	骨の形成と成長、および代謝機能について説明できる。 体液と血液を区分でき、それぞれの機能、ならびに凝固の仕組みを説明できる。 免疫機能について説明できる。 心循環系の機能を体系的に理解し、システムとしての正常な働きを説明できる。				
成績評価	定期試験の成績（80%）、小テストの成績（20%）				
使用教材	生理学（改訂4版）：全国柔道整復学校協会（監修）：南江堂、2020 シンプル生理学（改訂7版）：貴邑・根来（著）：南江堂、2016 スライドを用いた講義を行い、そのレジメを配布する。				
留意点	各単元終了時に小テストを実施し、成績評価に反映する。				

回数	授業計画	
第1回	骨の生理	骨の構造と機能
第2回		骨の形成と成長
第3回		骨の代謝
第4回	体液と血液	体液の区分と組成
第5回		血液の成分と組成
第6回		血球細胞と機能
第7回		止血機能、血液型
第8回	生体の防御機構	免疫系器官
第9回		免疫の機序
第10回	循環の生理	循環器
第11回		心臓の機能
第12回		心筋の構造
第13回		心筋収縮の機序
第14回		血管系の機能
第15回		循環の調節



# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	生理学IV	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	佐竹 裕孝	実務経験	無	時間数	30
学修内容	ヒトの身体がどのように働いて、その正常な機能を恒常的に維持しているかを器官系統ごとに学び、役割を理解する。また各器官系が互いに関連して働いていること統合的に理解し、臨床科目の礎となる人体の生理学的な基礎知識を習得する。				
到達目標	呼吸の仕組みを理解し、ガス交換の機能とその調節機能について説明できる。 体温調節の仕組みについて説明できる。 消化・吸収の仕組みと機能を理解し、それらの調節機序を説明できる。 エネルギー代謝と中間代謝の機序を説明できる。				
成績評価	定期試験の成績 (80%) , 小テストの成績 (20%)				
使用教材	生理学 (改訂4版) : 全国柔道整復学校協会 (監修) : 南江堂, 2020 シンプル生理学 (改訂7版) : 貴邑・根来 (著) : 南江堂, 2016 スライドを用いた講義を行い、そのレジメを配布する。				
留意点	各単元終了時に小テストを実施し、成績評価に反映する。				

回数	授業計画	
第1回	呼吸の生理	呼吸器, 換気
第2回		肺でのガス交換
第3回		血液によるガス交換
第4回		呼吸調節
第5回	体温	体温, 熱出納
第6回		気候への順応, 体温調節
第7回	消化・吸収	消化器, 平滑筋の生理
第8回		消化器の運動, 消化酵素
第9回		口腔の消化
第10回		胃の消化・吸収
第11回		小腸の消化・吸収
第12回		大腸の消化・吸収, 排便
第13回		肝臓・胆嚢, および膵臓の機能
第14回	栄養と代謝	栄養素
第15回		中間代謝, エネルギー代謝

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	生理学V	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	無	時間数	30
学修内容	腎の機能と尿の生成、内分泌腺の機能、生殖器の役割について、その重要性の上に立って基本事項を修得し、機能発現のシステムを理解する。				
到達目標	国家試験合格水準を単位取得のラインとし、最低線の目標とする。 器官・組織の関係性から人体の機能を論理的に解釈し、病理学や、臨床医学へ繋げる。				
成績評価	期末に行う定期試験の点数で評価し、100点満点中60点を合格点とする。				
使用教材	全国柔道整復学校協会監修、生理学教科書				
留意点					

回数	授業計画
第1回	腎の機能一般、腎の機能的構造、糸球体濾過
第2回	Na イオン・Cl イオンの再吸収、水の再吸収と排泄
第3回	グルコースの再吸収、尿細管における分泌
第4回	尿の成分、排尿
第5回	内分泌腺一般、ホルモンの定義・組成・分泌調節
第6回	ホルモンの血中運搬と代謝、作用機序、視床下部ホルモン
第7回	下垂体の構造、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン
第8回	甲状腺の構造と分泌ホルモン、ホルモンの分泌調節・生理作用
第9回	副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン
第10回	膵臓の内分泌細胞、インスリン・グルカゴン・ソマトスタチン
第11回	精巣のホルモン、卵巣のホルモン
第12回	性染色体とその異常、性分化
第13回	男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精
第14回	女性生殖器の構成、卵巣の周期、月経周期
第15回	妊娠と分娩、乳汁分泌

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	運動学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学、生理学が人の運動にどのように影響してくるかを知る。人間の正常な運動を知り、異常な運動を理解し、改善のために必要ない要素（運動療法）を理解できるようにする。教科書を中心に講義を進めるが、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	<p>「運動学」の概要を知り、人の運動を構成する構造と機能を理解する。</p> <p>各関節の構造、機能、筋の作用などを理解し説明できるようにする。</p> <p>運動学の講義を通し、柔道整復師にとって必要な患者を治すために最低限必要である正常な人の動きをイメージできるようにする。</p>				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	運動学（改訂第3版）：公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修：医歯薬出版株式会社				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	1. 運動学の目的 2. 運動の表し方
第2回	3. 身体運動と力学 A. ベクトル、B. てこ など
第3回	3. 身体運動と力学 C. 運動の法則、 D. 仕事と力学的エネルギー
第4回	4. 運動器の構造と機能 A. 骨 B. 関節
第5回	4. 運動器の構造と機能 C. 骨格筋
第6回	5. 神経の構造と機能 A. 神経細胞 B. 末梢神経
第7回	5. 神経の構造と機能 C. 中枢神経
第8回	6. 運動感覚
第9回	7. 反射と随意運動 A. 反射
第10回	7. 反射と随意運動 B. 随意運動
第11回	8. 四肢と体幹の運動 A. 上肢帯
第12回	8. 四肢と体幹の運動 B. 肩関節
第13回	8. 四肢と体幹の運動 C. 肘と前腕
第14回	8. 四肢と体幹の運動 D. 手関節と手
第15回	8. 四肢と体幹の運動 E. 股関節

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	運動学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学、生理学が人の運動にどのように影響してくるかを知る。人間の正常な運動を知り、異常な運動を理解し、改善のために必要ない要素（運動療法）を理解できるようにする。教科書を中心に講義を進めるが、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	「運動学」の概要を知り、人の運動を構成する構造と機能を理解する。 各関節の構造、機能、筋の作用などを理解し説明できるようにする。 運動学の講義を通し、柔道整復師にとって必要な患者を治すために最低限必要である正常な人の動きをイメージできるようにする。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	運動学（改訂第3版）：公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修：医歯薬出版株式会社				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	8. 四肢と体幹の運動 F. 膝
第2回	8. 四肢と体幹の運動 G. 足関節と足部
第3回	8. 四肢と体幹の運動 H. 体幹と脊柱
第4回	8. 四肢と体幹の運動 I. 頸椎
第5回	8. 四肢と体幹の運動 J. 胸椎
第6回	8. 四肢と体幹の運動 K. 腰椎、仙椎および骨盤
第7回	8. 四肢と体幹の運動 L. 顔面および頭部
第8回	9. 姿勢
第9回	10. 歩行 A. 歩行周期 B. 運動学的分析
第10回	10. 歩行 C. 運動力学的分析 D. 筋活動
第11回	10. 歩行 E. エネルギー代謝 F. 異常歩行
第12回	11. 運動発達
第13回	12. 運動学習
第14回	運動学的なストレッチング1（理論と実技）
第15回	運動学的なストレッチング2（実技）

# 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部
------	----------

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	生理学VI	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	緒方 華	実務経験	無	時間数	30
学修内容	生理学Ⅰ～Ⅴで学習したことを踏まえ、高齢者および競技者の生理学的特性と変化について学び、それに伴う疾患について論理的の一貫性をもって理解する。				
到達目標	加齢による身体変化や高齢者に特有の疾患・障害について、論理的説明をすることができる。また、スポーツおよびトレーニングによる身体変化を説明できる。				
成績評価	期末に行う定期試験の点数で評価し、100点満点中60点を合格点とする。				
使用教材	全国柔道整復学校協会監修、生理学教科書				
留意点	30時間の内訳は、「高齢者の生理学的特徴・変化」で15時間、「競技者の生理学的特徴・変化」で15時間とする。				

回数	授業計画
第1回	高齢者の生理学的特性 細胞、組織の加齢現象
第2回	加齢による臓器機能の変化 神経系・運動器系・感覚器系
第3回	加齢による臓器機能の変化 循環器系・呼吸器系・消化器系 皮膚
第4回	高齢者特有の疾患・障害 身体的フレイル・認知症・パーキンソン病
第5回	高齢者特有の疾患・障害 骨粗鬆症・転倒・睡眠障害
第6回	運動と加齢 歩行機能
第7回	運動と加齢 平衡機能 反応時間
第8回	高齢者の生理学的特徴まとめ / 競技者の生理学的特性 発育特性
第9回	少年期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動
第10回	少年期から青年期の呼吸循環系機能と運動
第11回	発育期の運動不足、過運動の影響
第12回	運動の習熟
第13回	スポーツおよびトレーニングによる適応（筋・心肺機能）
第14回	競技者の神経機構の特性
第15回	姿勢調節・眼球運動と姿勢制御

		対象学年	2年	学期	前期
科目名	病理学概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	宮崎 刀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 細胞障害、循環障害、進行性病変、退行性病変、炎症に関する理解を深める。				
成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 70 点 出席状況や授業態度も考慮する。				
使用教材	病理学概論 改訂第 3 版 医歯薬出版				
留意点					

回数	授業計画
第 1 回	病理学概論
第 2 回	疾病の一般
第 3 回	退行性病変 (1)
第 4 回	退行性病変 (2)
第 5 回	代謝障害 (1)
第 6 回	代謝障害 (2)
第 7 回	進行性病変 (1)
第 8 回	進行性病変 (2)
第 9 回	細胞、組織の適応 (1)
第 10 回	細胞、組織の適応 (2)
第 11 回	炎症総論 (1)
第 12 回	炎症総論 (2)
第 13 回	炎症各論 (1)
第 14 回	炎症各論 (2)
第 15 回	総まとめ

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	病理学概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	宮崎 刀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 免疫、腫瘍、先天異常、病因に関する理解を深める。				
成績評価	中間テスト 30点 期末テスト 70点 出席状況や授業態度も考慮する。				
使用教材	病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版				
留意点					

回数	授業計画
第1回	免疫総論
第2回	免疫各論(1)
第3回	免疫各論(2)
第4回	腫瘍総論(1)
第5回	腫瘍総論(2)
第6回	腫瘍各論(1)
第7回	腫瘍各論(2)
第8回	先天異常総論
第9回	先天異常各論
第10回	外因(1)
第11回	外因(2)
第12回	内因(1)
第13回	内因(2)
第14回	総まとめ
第15回	総まとめ(2)

		対象学年	2年	学 期	前 期
科目名	一般臨床 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な診察の基本を修得することができる。				
到達目標	1. 各診察の方法とその意義を修得することができる。 2. 症状・所見から柔道整復師が臨床現場で注意しなければならない事項を修得することができる。				
成績評価	学科試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（南江堂） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第1回	ガイダンス、年間予定発表、診察概論（診察の意義、診察の進め方）
第2回	診察各論（医療面接、視診①）
第3回	〃 （視診②）
第4回	〃 （視診③）
第5回	〃 （視診④）
第6回	〃 （打診、聴診）
第7回	〃 （触診①）
第8回	〃 （触診②）
第9回	〃 （生命徴候、感覚検査）
第10回	〃 （反射検査①）
第11回	〃 （反射検査②）
第12回	〃 （代表的な臨床症状①）
第13回	〃 （代表的な臨床症状②）
第14回	〃 （代表的な臨床症状③）
第15回	〃 （検査法）



		対象学年	2年	学期	後期
科目名	一般臨床医学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を修得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	ガイダンス、講義予定説明
第2回	呼吸器疾患① 総論
第3回	呼吸器疾患② かぜ症候群～気胸
第4回	まとめ、小テスト
第5回	循環器疾患① 総論、うっ血性心不全、虚血性心疾患
第6回	循環器疾患② 心臓弁膜症、先天性心疾患
第7回	循環器疾患③ 高血圧症～不整脈
第8回	まとめ、小テスト
第9回	消化器疾患① 総論、食道炎～胃癌
第10回	消化器疾患② 潰瘍性大腸炎～腸閉塞
第11回	肝胆膵疾患① 急性肝炎～肝癌
第12回	肝胆膵疾患② 胆石症～腹膜炎
第13回	まとめ、小テスト
第14回	代謝疾患
第15回	まとめ、小テスト

		対象学年	3年	学期	前期
科目名	一般臨床医学Ⅲ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を習得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	ガイダンス、講義予定説明。内分泌疾患① 総論、下垂体疾患、甲状腺疾患
第2回	内分泌疾患② 副甲状腺疾患、副腎皮質疾患
第3回	まとめ 小テスト
第4回	血液・造血器疾患① 総論、赤血球疾患
第5回	血液・造血器疾患② 白血球疾患、リンパ系疾患、血漿蛋白異常症
第6回	まとめ 小テスト
第7回	腎・尿路疾患① 総論、腎不全、CKD、血液浄化療法 腎移植
第8回	腎・尿路疾患② 糸球体疾患、尿路感染症、泌尿器疾患
第9回	まとめ、小テスト
第10回	神経疾患① 総論、脳血管障害、腫瘍性疾患～筋疾患
第11回	神経疾患② パーキンソン病～筋疾患
第12回	まとめ、小テスト
第13回	リウマチ性疾患 総論、関節リウマチ～シェーグレン症候群
第14回	感染症 総論、AIDS、带状疱疹
第15回	まとめ、テスト

		対象学年	3年	学期	前期
科目名	外科学概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4択試験、80点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高20点）を併せて60点以上の得点で単位認定				
使用教材	外科学概論：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	損傷論： 定義・種類 創傷治療
第2回	熱傷：概念・種類・治療・合併症
第3回	感染症：概念 感染性炎症
第4回	外表細菌性感染症 嫌気性感染症
第5回	腫瘍論： 概念・良性腫瘍
第6回	悪性腫瘍： 種類・診断・治療
第7回	肺癌・中皮腫： 診断、治療
第8回	食道癌・胃癌・大腸癌
第9回	肝癌・膵癌・胆道癌
第10回	乳癌・子宮癌・卵巣癌
第11回	甲状腺癌・腎癌・前立腺癌
第12回	ショック： 定義・種類・治療
第13回	輸血： 適応・種類 血液型
第14回	輸液： 適応・種類・IVH 胃瘻
第15回	性行為感染： 梅毒、クラミジア、HIV

		対象学年	3年	学期	後期
科目名	外科学概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4択試験、80点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高20点）を併せて60点以上の得点で単位認定				
使用教材	外科学概論：南江堂 一般臨床医学：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	消毒と滅菌 ICT 感染防御
第2回	手術： 縫合・手術手技
第3回	麻酔： 概念・全身麻酔 筋弛緩薬
第4回	局所麻酔・神経ブロック 緩和ケア
第5回	移植と免疫 ・ 再生医療： iPS細胞
第6回	出血と止血
第7回	心肺蘇生・救急医療 トリアージ
第8回	頭部外傷： 脳振蕩、血腫
第9回	頭痛・意識障害 「癲癇」
第10回	胸部外傷： 気胸、胸壁動揺、気管損傷
第11回	胸痛： 虚血性心疾患、大動脈瘤
第12回	腹部外傷・腹痛： 消化性潰瘍、炎症性腸疾患
第13回	腹痛・嘔吐： 膵炎、イレウス、胆石
第14回	虫垂炎・ヘルニア・痔疾
第15回	背痛： 帯状疱疹、尿管結石

		対象学年	2年	学期	前期
科目名	整形外科概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4択試験、80点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高20点）を併せて60点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	骨の基礎知識
第2回	リモデリング ビタミンD 骨軟化
第3回	骨粗鬆症
第4回	骨折治癒過程・合併症
第5回	骨髄炎・骨腫瘍
第6回	系統的骨疾患
第7回	関節の基礎知識
第8回	関節の感染症 結核性関節炎
第9回	関節リウマチ： 病態・診断・治療法
第10回	変形性関節症 1
第11回	変形性関節症 2
第12回	骨端症・循環障害 非感染性関節疾患
第13回	発育性股関節形成不全・離断性骨軟骨炎
第14回	骨格異常足趾の変形
第15回	遺伝の話題

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	整形外科概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4択試験、80点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高20点）を併せて60点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	骨格筋の基礎知識 筋膜
第2回	筋肉疾患：進行性筋ジストロフィー・筋断裂
第3回	靭帯・腱の基礎知識
第4回	腱鞘炎・腱断裂
第5回	神経の基礎知識 神経麻痺
第6回	絞扼性神経障害：橈骨神経麻痺
第7回	正中神経麻痺・尺骨神経麻痺
第8回	腕神経叢疾患：胸郭出口症候群 分娩麻痺 引き抜き損傷
第9回	絞扼性神経障害（下肢）
第10回	椎間板ヘルニア
第11回	脊柱管狭窄症
第12回	脊髄損傷：概念・診断・リハビリテーション
第13回	脊髄疾患 脊髄腫瘍
第14回	脳性麻痺 歩行障害
第15回	湿布の薬理：NSAIDs

		対象学年	2年	学期	前期
科目名	リハビリテーション概論Ⅰ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鶴飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。講義を通し、柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	講義概要、リハビリテーションの概念
第2回	リハビリテーション医学
第3回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第4回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第5回	リハビリテーション医学の基礎医学（障害学）
第6回	リハビリテーション医学の基礎医学（治療学）
第7回	リハ医学の評価と診断（A. 患者の捉え方、B. 身体計測）
第8回	リハ医学の評価と診断（C. 関節可動域測定法～）
第9回	リハ医学の評価と診断（D. E. F）
第10回	リハ医学の評価と診断（G. 小児の評価法、H. 協調性テスト）
第11回	リハ医学の評価と診断（H. 失認と失行の評価法、J. 心理評価）
第12回	リハ医学の評価と診断（K. L. M）
第13回	リハビリテーションの治療（A 理学療法-1 運動療法）
第14回	リハビリテーションの治療（A-2 物理療法）
第15回	リハビリテーションの治療（A-3 牽引、マッサージ他）

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	リハビリテーション概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。講義を通し柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	リハビリテーションの治療（B 作業療法）
第2回	リハビリテーションの治療（C 補装具-1 装具）
第3回	リハビリテーションの治療（C 補装具-2 義肢）
第4回	リハビリテーションの治療（C 補装具-3 移動補助具 -4 自助具他）
第5回	リハビリテーションの治療（D 言語治療）
第6回	リハ医学と関連職種、リハの実際 A 脳卒中-1 分類と特徴
第7回	リハの実際 A 脳卒中-2 障害-3 リハ
第8回	リハの実際 B 脊髄損傷
第9回	リハの実際 C 小児疾患 5-7, D 切断
第10回	リハの実際 D 切断 E 末梢神経損傷
第11回	リハの実際 F 関節リウマチ
第12回	リハの実際 G 整形外科疾患
第13回	リハの実際 H 心疾患 I 呼吸器疾患
第14回	リハの実際 J 老人のリハビリテーション
第15回	リハビリテーションと福祉



		対象学年	3年	学 期	後 期
科目名	一般臨床医学Ⅳ	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として自分の力量と限界をわきまえながら、救急現場や他の場面で適切に病態把握をして対処する方法を確認する。損傷に類似した症状を示す疾患の病態把握と治療法・対処法などを学習する。				
到達目標	既に学んでいる知識を整理し定着させ応用できる能力を向上させることを目標にする。				
成績評価	小テストおよび授業態度などを総合して評価する。				
使用教材	関連する教科書および他の資料など。				
留意点	90分の授業で学生の集中力を維持するために、色々な内容を準備する。 また、国家試験が近づいているため内容によっては関連する過去問を取り上げながら可能な範囲で解説していく。				

回 数	授業計画
第1回	1 柔道整復術の適否を考える
第2回	2 損傷に類似した症状を示す疾患 (1)
第3回	3 損傷に類似した症状を示す疾患 (2)
第4回	4 損傷に類似した症状を示す疾患 (3)
第5回	5 血流障害を伴う損傷
第6回	6 末梢神経損傷を伴う損傷
第7回	7 脱臼骨折
第8回	8 外出血を伴う損傷
第9回	9 病的骨折および脱臼
第10回	10 意識障害を伴う損傷
第11回	11 脊髄症状のある損傷
第12回	12 呼吸運動障害を伴う損傷
第13回	13 内臓損傷の合併が疑われる損傷
第14回	14 高エネルギー外傷
第15回	15 まとめ

		対象学年	3年	学期	前期
科目名	衛生学・公衆衛生学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回数	授業計画
第1回	衛生学・公衆衛生学の歴史
第2回	健康の概念
第3回	健康指標
第4回	疾病予防・健康管理
第5回	感染症
第6回	感染症予防対策
第7回	消毒法の分類と実践
第8回	第1回～第7回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第9回	環境保健1
第10回	環境保健2
第11回	生活環境
第12回	食品衛生1
第13回	食品衛生2・廃棄物
第14回	母子保健
第15回	第9回～第14回まとめ（第二回小テストおよび解説）

		対象学年	3年	学期	後期
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回数	授業計画
第1回	学校保健
第2回	産業保健1
第3回	産業保健2
第4回	成人保健1
第5回	成人保健2・高齢者保健
第6回	精神保健
第7回	第1回～第6回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第8回	地域保健1
第9回	地域保健2・国際保健
第10回	衛生行政
第11回	保健医療制度
第12回	疫学1
第13回	疫学2
第14回	第8回～第13回まとめ（第二回小テストおよび解説）
第15回	医の倫理と安全確保、まとめ、練習問題

		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	医療概論	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	遠山 治孝	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	医療人を志す者であるという自覚と、患者と接する際に必要となる最低限の倫理観やマナーを考える力を養う。				
到達目標	患者との信頼関係を築き、柔道整復業を全うするうえで「やっていいこと」と「やってはいけないこと」の分別がつけられる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 必要に応じてプリントを配布する				
留意点	30 時間のうち、15 時間は「職業倫理」に関する授業を行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション (学習方法、評価方法等)
第 2 回	職業倫理① 柔道整復師にもとめられる職業倫理
第 3 回	職業倫理② 柔道整復師の歴史と業務範囲
第 4 回	職業倫理③ 柔道整復の療養費制度
第 5 回	職業倫理④ 施術録の記載方法、保存義務
第 6 回	職業倫理⑤ 守秘義務、個人情報保護
第 7 回	職業倫理⑥ 各種ハラスメント
第 8 回	職業倫理⑦ インフォームドコンセント
第 9 回	職業倫理⑧ エビデンスに基づいた施術
第 10 回	職業倫理⑨ 患者の権利
第 11 回	医学と医療の歴史①
第 12 回	医学と医療の歴史②
第 13 回	医学と医療の歴史③
第 14 回	医学と医療の歴史④
第 15 回	総復習

		対象学年	3年	学期	前期
科目名	関係法規	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として必要な保険医療制度と関係法規について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師に関連する法律の知識の習得。				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	関係法規：社団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
留意点	関係法規は柔道整復師の身分を定める法律を含め学ぶため皆勤が望ましい。				

回数	授業計画
第1回	法の意義、体系
第2回	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
第3回	柔道整復師法：目的、定義
第4回	柔道整復師法：免許、国家試験
第5回	柔道整復師法：業務
第6回	柔道整復師法：施術所
第7回	柔道整復師法：雑則、罰則
第8回	医療関係法規
第9回	医療関係法規
第10回	医療法
第11回	医療法
第12回	社会福祉関係法規
第13回	社会保険関係法規
第14回	総復習1
第15回	総復習2

		対象学年	1年生	学 期	前期
科目名	柔道 I A	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道の素養（体力）を身につける。 礼法、受身等の基本的な知識技術を習得する。				
到達目標	柔道を行うための基本的な心構え、体力を身につける。 正しく柔道着を着用することができる。 正しい礼法・受身を身につける。				
成績評価	1、定期試験(60%) 2、小テスト(30%) 3、出席および授業態度(10%) 遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身、乱取等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。				

回 数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	後方受身・側方受身①
第3回	後方受身・側方受身② 前方受身
第4回	前方回転受身①
第5回	前方回転受身②
第6回	受身小テスト
第7回	大腰① 打ち込み 袈裟固①
第8回	大腰② 投げ 袈裟固②
第9回	体落① 打ち込み 四方固①
第10回	体落② 投げ 四方固②
第11回	投げ小テスト
第12回	投込①
第13回	投込②
第14回	前期授業の復習
第15回	前期授業の復習

		対象学年	1年生	学 期	後期
科目名	柔道 I B	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道の素養（体力）を身につける。 礼法、受身等の知識技術を習得する。 約束乱取ができる技術体力を身につける。				
到達目標	礼法が自然にできる。 投げられても安全な受身ができる。 正しい投げ技（安全）で投げることができる。				
成績評価	4、定期試験(60%) 5、小テスト(30%) 6、出席および授業態度(10%) 遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身、乱取等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。				

回 数	授業計画
第 1 回	前期復習
第 2 回	小内刈り
第 3 回	大内刈り
第 4 回	投げ込み① その場で投げる
第 5 回	投げ込み② 移動しながら投げる
第 6 回	約束乱取① 乱取のルール説明
第 7 回	約束乱取②
第 8 回	乱取
第 9 回	乱取
第 10 回	クラス内試合①
第 11 回	クラス内試合②
第 12 回	試合反省
第 13 回	乱取
第 14 回	後期授業の復習
第 15 回	後期授業の復習

		対象学年	2年生	学 期	前期
科目名	柔道ⅡA	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道の礼法、受身、寝技、立技の習熟 柔道の歴史を知る				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取、乱取を行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史を説明することができる。				
成績評価	7、実技試験(70%) 8、筆記試験(20%) 9、出席および授業態度(10%) ・やむおえない場合により当日実技試験を受けることができない者は、日を改め筆記試験を行う。その際の評価は総合で上限は60点とする。 ・遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。				

回 数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	寝技:1年生の復習、立技:1年生の復習
第3回	寝技:寝技の変化①、立技:1年生の復習、約束乱取
第4回	寝技:寝技の変化②、立技:1年生の復習、約束乱取
第5回	寝技:攻め方①、立技:足技、約束乱取
第6回	寝技:攻め方②、立技:連続技①、約束乱取、乱取
第7回	寝技:攻め方③、立技:連続技②、約束乱取、乱取
第8回	寝技:乱取、立技:背負投、乱取
第9回	寝技:乱取、立技:払腰、乱取
第10回	寝技:乱取、立技:内股、連絡技③
第11回	立技:各自得意な技を見つける①
第12回	立技:各自得意な技を見つける②
第13回	柔道の歴史について講義
第14回	前期の授業の復習
第15回	前期の授業の復習



		対象学年	2年生	学 期	後期
科目名	柔道ⅡB	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道の礼法、受身、寝技、立技の習熟 柔道の歴史・ルールを知る 投の形の手技、腰技、足技を知る。				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取、乱取を行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史・ルールを説明することができる。				
成績評価	10、 実技試験(70%) 11、 筆記試験(20%) 12、 出席および授業態度(10%) ・やむおえない場合により当日実技試験を受けることができない者は、日を改め筆記試験を行う。その際の評価は総合で上限は60点とする。 ・遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 投の形 DVD				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。				

回 数	授業計画
第1回	習得済みの技の習熟① 打ち込み
第2回	習得済みの技の習熟② 移動打ち込み
第3回	習得済みの技の習熟③ 抑え込みへの連携①
第4回	習得済みの技の習熟④ 抑え込みへの連携②
第5回	習得済みの技の習熟⑤ 約束乱取
第6回	習得済みの技の習熟⑥ 乱取
第7回	試合形式の乱取① 柔道のルール理解①
第8回	試合形式の乱取② 柔道のルール理解②
第9回	クラス内試合①
第10回	クラス内試合②
第11回	クラス内試合③
第12回	クラス内試合の反省
第13回	柔道の歴史、ルールについて講義
第14回	後期の授業の復習
第15回	後期の授業の復習

		対象学年	3年生	学 期	通 年
科目名	柔道Ⅲ	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	丹羽十堂 今尾省司	実務経験	有	時間数	45
学修内容	礼法、受身、約束乱取の習得、投の形(手技、腰技、足技)の習得、試験形式				
到達目標	認定実技審査合格レベルに到達する				
成績評価	1. 認定実技模擬審査(50%) 2. 3回の小テスト(各10% 計30%) 3. 出席及び授業態度(20%) ※3年間で筆記のみ合格し、実技試験に合格していない者は単位取得を認めない。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 講道館柔道 DVD シリーズ第3作「投の形」(財団法人講道館)				
留意点	見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とすることもある				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第1回	礼法の確認、受身、寝技、立技	第16回	受身、投の形(足技)、小テスト③
第2回	受身、寝技、立技、投の形(浮落)	第17回	認定実技の流れ、練習
第3回	受身、寝技、立技、投の形(背負投)	第18回	認定実技の練習
第4回	受身、寝技、立技、投の形(肩車)	第19回	認定実技の練習
第5回	受身、寝技、立技、投の形(手技)	第20回	認定実技の練習
第6回	受身、投の形(手技)、小テスト①	第21回	認定実技の練習
第7回	受身、寝技、立技、投の形(浮腰)	第22回	認定実技模擬試験の反省、練習
第8回	受身、寝技、立技、投の形(払腰)	第23回	認定実技の練習
第9回	受身、寝技、立技、投の形(釣込腰)	第24回	認定実技最終確認、練習
第10回	受身、寝技、立技、投の形(腰技)		
第11回	受身、投の形(腰技)、小テスト②		
第12回	受身、寝技、立技、投の形(送足払)		
第13回	受身、寝技、立技、投の形(支釣込足)		
第14回	受身、約束乱取、投の形(内股)		
第15回	受身、約束乱取、投の形(足技)		

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	社会保障制度	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	遠山治孝	実務経験	有・無	時間数	15
学修内容	社会保障制度について学び、柔道整復師としての関わりを理解する				
到達目標	社会保障制度の概要が説明できる 柔道整復師における療養費の取り扱いについて説明できる				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理				
留意点	社会保障制度は柔道整復師にとって必要な医療保険制度を学習するため皆勤が望ましい。				

回数	授業計画
第1回	医療保険制度
第2回	医療保険制度と柔道整復師
第3回	柔道整復師業務における療養費
第4回	受領委任払いと償還払い
第5回	柔道整復療養費の支給対象
第6回	療養費制度の概要
第7回	療養費請求のケーススタディ
第8回	療養費請求のケーススタディ
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	1年	学期	前期

科目名	柔道整復学 総論 I A	科目の別	講義	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	<p>柔道整復師に必要な柔道整復理論、特に骨折総論の知識を修得する。</p> <p>実際に臨床現場で骨折治療にあたるための基礎知識を得る。</p> <p>2年次の柔道整復理論（各論）を理解するための基礎知識を身につける。</p>				
到達目標	<p>骨の解剖学的特徴と骨折の定義、分類について説明することができる。</p> <p>骨折の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる。</p> <p>骨折の治療、指導管理について説明することができる。</p> <p>骨折修復過程を理解することで、徒手整復の原則、基本的方法を列挙できる。</p>				
成績評価	<p>定期試験によって評価を行う</p> <p>欠席1回につき5点減点</p> <p>但し、授業内容をレポートにて提出した場合はこの限りでない</p>				
使用教材	<p>柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂</p> <p>柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂</p>				
留意点					

回数	授業計画
第1回	ガイダンス（評価方法の説明）
第2回	骨の説明
第3回	運動器の概説
第4回	損傷時に加わる力（急性、亜急性を含む）
第5回	骨折概説 骨の形態と機能
第6回	骨損傷に加わる力
第7回	骨損傷の分類概説
第8回	骨の性状による分類
第9回	骨損傷に程度による分類
第10回	骨折線の方向による分類
第11回	骨折数による分類
第12回	骨折部と外創との交通の有無による分類
第13回	外力の働いた部位による分類・外力の働きによる分類
第14回	外力の働きによる分類
第15回	骨折の部位による分類

## 2021 年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I 部		
対象学年	1 年	学期	後 期

科目名	柔道整復学 総論 I B	科目の別	講義	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論、特に骨折総論の知識を修得する。 実際に臨床現場で骨折治療にあたるための基礎知識を得る。 2年次の柔道整復理論（各論）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	骨の解剖学的特徴と骨折の定義、分類について説明することができる。 骨折の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折の治療、指導管理について説明することができる。 骨折修復過程を理解することで、徒手整復の原則、基本的方法を列挙できる。				
成績評価	定期試験によって評価を行う 欠席1回につき5点減点 但し、授業内容をレポートにて提出した場合はこの限りでない				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	骨損傷の症状・局所症状
第2回	骨損傷の症状・全身症状
第3回	骨損傷の合併症概説
第4回	併発症について
第5回	続発症について
第6回	後遺症について 過剰仮骨形成 偽関節について
第7回	変形治癒 骨萎縮について
第8回	無腐性骨壊死 関節運動障害について
第9回	外傷性骨化性筋炎 フォルクマン拘縮について
第10回	小児骨損傷について
第11回	ソルターハリスについて 高齢者骨損傷について
第12回	骨折の治癒経過について 骨損傷の予後について
第13回	骨損傷の治癒に影響を与える因子について
第14回	骨折の整復法
第15回	痛みの基礎 評価

## 2021 年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I 部		
対象学年	1 年	学期	前期

科目名	柔道整復学 総論ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論の脱臼・軟部組織の損傷総論の知識を習得する。				
到達目標	関節部周辺における各軟部組織の構成から損傷、修復過程を覚える。 脱臼、軟部組織損傷の定義、分類について説明することができる。				
成績評価	定期試験 90% 課題 10% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 機能障害学入門（九州神陵文庫） 人体の正常構造と機能（日本医事新報社）				
留意点	柔道整復学総論は2年次各論の基礎であるため皆勤が望ましい。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	関節の損傷・・・関節の構造と機能・不動関節
第3回	関節構成組織・・・関節の構造と機能・可動関節・関節軟骨
第4回	関節構成組織・・・関節の構造と機能・可動関節・関節軟骨・関節包
第5回	関節構成組織・・・特殊装置（関節半月円板）
第6回	関節構成組織・・・特殊装置（関節半月円板・関節唇）
第7回	関節構成組織損傷・・・特殊装置（関節唇・滑液包・靭帯）①
第8回	関節構成組織損傷・・・特殊装置（関節唇・滑液包・靭帯）②
第9回	関節構成組織損傷・・・関節軟骨損傷
第10回	関節構成組織損傷・・・関節部の損傷（筋総論及び損傷）①
第11回	関節構成組織損傷・・・関節部の損傷（筋総論及び損傷）②
第12回	関節構成組織損傷・・・関節部の損傷（腱総論及び損傷）
第13回	脱臼・・・症状、合併症、予後
第14回	脱臼・・・復習
第15回	前期総復習

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	1年	学期	後期

科目名	柔道整復学 総論ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論の脱臼・軟部組織の損傷総論の知識を習得する。				
到達目標	関節部周辺における各軟部組織の構成から損傷、修復過程を覚える。 脱臼、軟部組織損傷の定義、分類について説明することができる。				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 機能障害学入門：九州神陵文庫 人体の正常構造と機能：日本医事新報社				
留意点	柔道整復学総論は2年次各論の基礎であるため皆勤が望ましい。				

回数	授業計画
第1回	筋損傷の分類①
第2回	筋損傷の分類②
第3回	末梢神経損傷①
第4回	末梢神経損傷②
第5回	血管損傷
第6回	血管損傷
第7回	皮膚の損傷
第8回	診察①
第9回	診察②
第10回	診察③
第11回	治療法①整復法
第12回	治療法②整復法
第13回	治療法③固定法
第14回	治療法④後療法
第15回	総復習

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	1年	学期	前期

科目名	柔道整復学 総論ⅢA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学用語や表現言語を理解する。</li> <li>・基本的な人体の構造を3Dでイメージできる。</li> <li>・基本的な人体組織の機能を説明できる。</li> </ul>				
成績評価	各項目でのレポート提出・授業への取り組み姿勢(評価の10%) 中間試験20%(各二回10%づつ) 期末試験を実施する(評価の70%)				
使用教材	生理学(南江堂) 解剖学(医歯薬出版株式会社)				
留意点	グループでの授業が主となるため、生徒間の行動や授業態度等に目が行き届くように注意する。 身体の構造を把握しておくことの大切さを伝えていくことに留意する。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス
第2回	人体の細胞及び組織
第3回	物質の移動(拡散、浸透、濾過)
第4回	循環器系の解剖・生理まとめ
第5回	循環器系の解剖・生理解説
第6回	呼吸器系の解剖・生理まとめ
第7回	呼吸器系の解剖・生理解説
第8回	消化器系の解剖・生理まとめ
第9回	消化器系の解剖・生理解説
第10回	肝胆膵系の解剖・生理まとめ
第11回	肝胆膵系の解剖・生理解説
第12回	神経系の解剖・生理まとめ
第13回	神経系の解剖・生理解説
第14回	骨格系解剖・生理まとめ
第15回	骨格系解剖・生理解説

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	1年	学期	後期



科目名	柔道整復学 総論ⅢB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学用語や表現言語を理解する。</li> <li>・基本的な人体の構造を3Dでイメージできる。</li> <li>・基本的な人体組織の機能を説明できる。</li> </ul>				
成績評価	各項目でのレポート提出・授業への取り組み姿勢(評価の10%) 中間試験20%(各二回10%づつ) 期末試験を実施する(評価の70%)				
使用教材	生理学(南江堂) 解剖学(医歯薬出版株式会社)				
留意点	グループでの授業が主となるため、生徒間の行動や授業態度等に目が行き届くように注意する。 身体の構造を把握しておくことの大切さを伝えていくことを留意する。				

回数	授業計画
第1回	内分泌系(下垂体中心)の解剖・生理まとめ
第2回	内分泌系の解剖・生理解説
第3回	内分泌(生殖器中心)の解剖・生理まとめ
第4回	内分泌系の解剖・生理解説
第5回	感覚器系の解剖・生理まとめ
第6回	感覚器系の解剖・生理解説
第7回	体表解剖に必要な筋・骨格の総復習(上肢)
第8回	体表解剖に必要な筋・骨格の総復習(下肢及び体幹)
第9回	体表解剖 ①総論
第10回	②肩甲帯～上腕
第11回	③前腕～手部
第12回	④股関節～大腿
第13回	⑤膝関節～足部
第14回	⑥総復習
第15回	エコーによる観察 総論

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	2年	学期	前期

科目名	柔道整復学 演習 I	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	1年で学習してきた人体の生理学的機能を総合的に理解する。 柔道整復師に必要な人体の機能について修得する。				
到達目標	柔道整復師に必要な生理学系の知識を総合的に習得する。				
成績評価	小テスト【50%】 期末試験【50%】				
使用教材	生理学（南江堂） 柔道整復学・理論編（南江堂）				
留意点	授業時間内に理解度を確認する時間を設定し、生徒の習熟度に合わせた授業進行を行う。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション、体液の生理学
第2回	細胞小器官等、生理学基礎
第3回	血液の生理学：血漿蛋白、細胞成分、血液型、血液凝固①
第4回	血液の生理学：血漿蛋白、細胞成分、血液型、血液凝固①
第5回	循環の生理学：心臓の機能・心電図、心臓のポンプ機能・血管系・血圧①
第6回	循環の生理学：心臓の機能・心電図、心臓のポンプ機能・血管系・血圧②
第7回	循環の生理学：心臓の機能・心電図、心臓のポンプ機能・血管系・血圧③
第8回	小テスト、問題演習
第9回	代謝の生理学：ビタミン・中間代謝・エネルギー代謝
第10回	体温の生理学：体温の変動・熱放散・熱産生
第11回	呼吸の生理学：呼吸器の構造・換気、酸素運搬・二酸化炭素運搬・呼吸の調節①
第12回	呼吸の生理学：呼吸器の構造・換気、酸素運搬・二酸化炭素運搬・呼吸の調節②
第13回	消化と吸収の生理学：消化器系の働き・消化液・消化吸収、肝臓と胆道系①
第14回	消化と吸収の生理学：消化器系の働き・消化液・消化吸収、肝臓と胆道系②
第15回	前期総復習

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	3年	学期	前期

科目名	柔道整復学 演習ⅡA	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	池田 美樹	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学の国家試験対策授業。 内容を理解し確実に問題を解くことができる。さまざまな演習問題を行うことによって応用力を身につけ、国家試験に対する力をつける。				
到達目標	国家試験の解剖学において、必修問題8割、演習問題6割以上、正答できる。				
成績評価	1. 定期試験 50% マークシート方式 2. 小テストおよび課題提出 50% * 期末テストにて不合格になった場合、再試験にて60%以上の得点により合格とする。				
使用教材	解剖学 社団法人全国柔道整復学校協会：監修 南江堂 過去国家試験問題 体の正常構造と機能 トートラ解剖学				
留意点	解剖学は範囲も広く、問題数も多いので、必ず予習もしくは復習を行う事。 小テスト・中間テストは範囲を絞り行うので、わからない所は、教科書で調べて理解しておくか、質問をして、苦手克服をしながら勉強を進めていく事。 単語の暗記だけにならないよう、教科書を読み込み、応用問題に対する力をつけること。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	解剖学概説
第3回	脈管系：心臓・動脈
第4回	静脈・リンパ・胎児循環
第5回	復習
第6回	内臓系：消化器系
第7回	呼吸器系
第8回	泌尿器系
第9回	生殖器系
第10回	内分泌系
第11回	復習
第12回	中枢神経：脳・伝導路
第13回	末梢神経：脳神経・自律神経
第14回	復習
第15回	総復習

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I部		
対象学年	3年	学期	後期

科目名	柔道整復学 演習ⅡB	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	池田 美樹	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学の国家試験対策授業。 内容を理解し確実に問題を解くことができる。さまざまな演習問題を行うことによって応用力を身につけ、国家試験に対する力をつける。				
到達目標	国家試験の解剖学において、必修問題8割、演習問題6割以上、正答できる。				
成績評価	1. 定期試験 50% マークシート方式 2. 小テストおよび課題提出 50% * 期末テストにて不合格になった場合、再試験にて60%以上の得点により合格とする。				
使用教材	解剖学 社団法人全国柔道整復学校協会：監修 南江堂 過去国家試験問題 体の正常構造と機能 トートラ解剖学				
留意点	解剖学は範囲も広く、問題数も多いので、必ず予習もしくは復習を行う事。 小テスト・中間テストは範囲を絞り行うので、わからない所は、教科書で調べて理解しておくか、質問をして、苦手克服をしながら勉強を進めていく事。 単語の暗記だけにならないよう、教科書を読み込み、応用問題に対する力をつけること。				

回数	授業計画
第1回	総復習
第2回	運動器系：骨格系
第3回	筋系
第4回	脊髄神経
第5回	体表解剖
第6回	感覚器系
第7回	総復習
第8回	内臓系復習
第9回	脈管系復習
第10回	神経系復習
第11回	総復習
第12回	総復習
第13回	総復習
第14回	総復習
第15回	総復習

## 2021年度 授業計画

科の種別	柔道整復 I部		
対象学年	2年	学期	前期

科目名	外傷保存療法	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	15
学修内容	・外傷に対する知識（主に第1段階について）を習得する。				
到達目標	・外傷の発生要因を理解し、それに対する予防法を提案できるようにする ・目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期テスト100%				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂6版（南江堂） 柔道整復学・実技編 改訂2版（南江堂）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス 柔道整復業務
第2回	骨折・脱臼・軟部組織損傷の施術
第3回	損傷の診察
第4回	患部の観察
第5回	第1次予防
第6回	徒手整復・治療法
第7回	治癒の判定・予後
第8回	総復習
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道整復学 各論 I A	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論、頭部・顔面部損傷および鎖骨部損傷の知識を修得する。臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
到達目標	頭部、顔面部、鎖骨部の損傷の定義・分類・評価方法等について説明することができる。 頭部、顔面部、鎖骨部の治療法および指導管理について説明することができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第2回	頭部・顔面部の解剖と機能
第3回	頭部・顔面部の骨折①（頭蓋冠骨折の概説および合併症）
第4回	頭部・顔面部の骨折②（頭蓋底骨折の概説および合併症）
第5回	頭部・顔面部の骨折③（鼻骨・鼻軟骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折）
第6回	頭部・顔面部の骨折④（下顎骨骨折）、顎関節前方脱臼（両側脱臼、片側脱臼）
第7回	顎関節脱臼（後方脱臼、側方脱臼）、頭部・顔面部の打撲
第8回	顎関節症と外傷性顎関節損傷（顎関節捻挫）
第9回	鎖骨部の解剖と機能
第10回	鎖骨骨折の概説（定型的転位、症状、合併症）
第11回	鎖骨骨折の固定法（セイヤー絆創膏固定、8字帯固定法）
第12回	鎖骨脱臼①（胸鎖関節脱臼の概説および合併症）
第13回	鎖骨脱臼②（肩鎖関節脱臼の概説および合併症）
第14回	鎖骨脱臼③（肩鎖関節上方脱臼のテープ固定法）
第15回	総復習

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔道整復学 各論 I B	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	上肢帯から続く上腕近位部～骨幹部の外傷の鑑別ができるだけの知識を身につける。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
到達目標	柔道整復師に必要な柔道整復理論、上腕骨近位部、肩部損傷の知識を修得する。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 無断欠席および授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	肩関節部の損傷① 解剖および機能
第2回	肩関節部の損傷② 肩甲骨骨折の概説および合併症
第3回	肩関節部の損傷③ 上腕骨近位部骨折(解剖頸骨折、外科頸骨折)の概説および合併症
第4回	肩関節部の損傷④ 肩関節前方脱臼の概説と整復法・固定法
第5回	肩関節部の損傷⑤ 肩関節前方脱臼の固定法（局所副子固定）
第6回	肩関節部の損傷⑥ 肩関節後方脱臼・下方脱臼の概説および合併症
第7回	肩関節部の軟部組織損傷① 腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷
第8回	肩関節部の軟部組織損傷② スポーツに伴う損傷
第9回	肩関節部の軟部組織損傷③ スポーツに伴う損傷
第10回	肩関節部の軟部組織損傷④ 動揺性肩関節、末梢神経障害、その他の疾患
第11回	上腕部の損傷① 解剖および機能、上腕骨外科頸骨折の概説および合併症
第12回	上腕部の損傷② 上腕骨外科頸骨折の概説および合併症
第13回	上腕部の損傷③ 上腕骨外科頸骨折の整復法・固定法、上腕骨骨幹部骨折の概説
第14回	上腕部の損傷④ 上腕骨骨幹部骨折の概説、整復法・固定法（ミッドドルフ三角副子）
第15回	上腕部の損傷⑤ 上腕骨骨幹部骨折の整復法・固定法（ミッドドルフ三角副子）

		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 各論ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	肘関節部から指先までの損傷は臨床でも遭遇する機会が多いので、症状の理解から 施術がイメージできることが望まれる *神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第1回	肘関節部の機能解剖
第2回	上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）
第3回	上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折、内側上顆骨折）
第4回	前腕骨近位部の骨折（橈骨近位端骨折、肘頭骨折）
第5回	肘関節脱臼（前腕両骨脱臼）
第6回	肘関節脱臼（前腕両骨後方脱臼、整復法、固定法）実技含む
第7回	肘関節脱臼（橈骨頭単独脱臼、肘内障）実技含む
第8回	肘関節部の軟部組織損傷（靭帯損傷、野球肘、テニス肘など）
第9回	前腕部の機能解剖
第10回	前腕骨骨幹部骨折（橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折）
第11回	前腕骨骨幹部骨折（モンテギア骨折、前腕両骨骨幹部骨折）
第12回	前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント症候群、腱交叉症候群）
第13回	手関節部の機能解剖
第14回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折、スミス骨折）
第15回	前腕遠位部の骨折（バートン骨折、ショーファー骨折、骨端線離開）



		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	肘関節部から指先までの損傷は臨床でも遭遇する機会が多いので、症状の理解から 施術がイメージできることが望まれる *神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第1回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折の整復法、固定法）実技含む
第2回	手根骨骨折（舟状骨骨折）
第3回	手根骨骨折（三角骨、有鉤骨、豆状骨、その他の骨折）
第4回	手関節脱臼（遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼）
第5回	手関節脱臼（月状骨および月状骨周囲脱臼）
第6回	手関節部の軟部組織損傷（TFCC、ド・ケルバン病、その他）
第7回	手指部の機能解剖
第8回	中手骨骨折（骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折、基部骨折）
第9回	手根中手関節脱臼（第1CM、第2～5CM関節）
第10回	指骨骨折（基節骨骨折）
第11回	指骨骨折（中節骨骨折）
第12回	指骨骨折（末節骨骨折）
第13回	中手指節間脱臼（第1MP、第2～5MP関節）
第14回	指節間関節脱臼（PIP, DIP関節）
第15回	腱・靭帯の損傷、手指部の変形疾患

		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道整復理論 各論ⅢA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	青木茂康	実務経験	有	時間数	30
学修内容	頸部、胸背部の各損傷や、鑑別すべき疾患についての基礎知識を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部位の構造と機能を説明できる.</li> <li>・各部位に発生する外傷の特徴・発生機序・症状・治療法が説明できる.</li> <li>・各部位における外傷とその他の疾患との鑑別ができる.</li> </ul>				
成績評価	定期試験 80% 小テスト（講義内で実施） 20%				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 標準整形外科学 南江堂				
留意点	講義内容が正しく理解されているか確認するため、講義内で小テストを実施する。 小テストは評価に含まれるため、出席を常とするよう注意する。				

回数	授業計画	
第1回	オリエンテーション 授業の進め方	
第2回	頸部の損傷	頸椎の解剖と機能
第3回	頸椎の骨折	
第4回	頸椎の脱臼	
第5回	頸部の軟部組織損傷	
第6回	注意すべき疾患	
第7回	胸・背部の損傷	解剖と機能
第8回	胸部の骨折 胸骨骨折・肋骨骨折	
第9回	肋骨骨折 固定法実技	
第10回	胸椎の骨折・脱臼	
第11回	胸・背部の軟部組織損傷・注意すべき疾患	
第12回	腰部の損傷	腰部、仙骨部の解剖と機能
第13回	腰椎の骨折・脱臼	
第14回	腰部の軟部組織損傷	
第15回	その他疾患・注意すべき疾患	

		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔道整復理論 各論ⅢB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	青木茂康	実務経験	有	時間数	30
学修内容	骨盤部から大腿部の各損傷や、鑑別すべき疾患についての基礎知識を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部位の構造と機能を説明できる.</li> <li>・各部位に発生する外傷の特徴・発生機序・症状・治療法が説明できる.</li> <li>・各部位における外傷とその他の疾患との鑑別ができる.</li> </ul>				
成績評価	定期試験 80% 小テスト（講義内で実施） 20%				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 標準整形外科学 南江堂				
留意点	講義内容が正しく理解されているか確認するため、講義内で小テストを実施する。 小テストは評価に含まれるため、出席を常とするよう注意する。				

回数	授業計画	
第1回	骨盤部の損傷	解剖と機能
第2回		骨盤骨骨折 骨盤骨単独骨折
第3回		骨盤骨骨折 骨盤輪骨折
第4回	股関節部の損傷	股関節・大腿部の解剖と機能
第5回		大腿骨近位部の骨折
第6回		大腿骨近位部の骨折
第7回		股関節脱臼
第8回		股関節脱臼
第9回		股関節の軟部組織損傷
第10回		注意すべき疾患
第11回	大腿部の損傷	解剖と機能
第12回		大腿骨骨幹部の骨折
第13回		大腿骨骨幹部の骨折
第14回		大腿部の軟部組織損傷・注意すべき疾患
第15回	後期復習	

		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論IVA	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学各論・下肢 骨折、脱臼、軟部組織損傷に関する知識の習得				
到達目標	各損傷に対しての発生機序を理解し解剖学的運動学的視点から説明ができること 症状を理解し体表からの観察視点を考える。 その上で検査法、鑑別診断、合併症などを理解する				
成績評価	定期試験 90% 授業態度を含む出席率 10%				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 標準整形外科学 南江堂 その他必要に応じて資料を使用する				
留意点	二年次は特にカリキュラム的にタイトなので、各自が将来柔道整復師となることを目標とした学習姿勢を意識すること				

回 数	授業計画
第 1 回	膝関節部の損傷 解剖と機能 大腿骨遠位部の骨折
第 2 回	膝関節部の損傷 大腿骨遠位部の骨折
第 3 回	膝関節部の損傷 下腿近位部の骨折
第 4 回	膝関節部の損傷 下腿近位部の骨折 膝関節の脱臼
第 5 回	膝関節部の損傷 膝蓋骨の骨折 膝蓋骨脱臼
第 6 回	中間テスト
第 7 回	膝関節部の損傷 軟部組織損傷
第 8 回	膝関節部の損傷 軟部組織損傷
第 9 回	膝関節部の損傷 軟部組織損傷
第 10 回	膝関節部の損傷 軟部組織損傷
第 11 回	膝関節部の損傷 軟部組織損傷
第 12 回	認定実技対策 膝関節 テーピング
第 13 回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折 クラームル副子固定
第 14 回	実技対策予備日
第 15 回	前期テスト

		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論IVB	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学各論・下肢 骨折、脱臼、軟部組織損傷に関する知識の習得				
到達目標	各損傷に対しての発生機序を理解し解剖学的運動学的視点から説明ができること 症状を理解し体表からの観察視点を考える。 その上で検査法、鑑別診断、合併症などを理解する				
成績評価	定期試験 90% 授業態度を含む出席率 10%				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 標準整形外科学 南江堂 必要に応じて資料を使用する				
留意点	二年次は特にカリキュラム的にタイトなので、各自が将来柔道整復師となることを目標とした学習姿勢を意識すること				

回 数	授業計画
第1回	下腿部の損傷 解剖と機能 下腿骨幹部の骨折
第2回	下腿部の損傷 下腿骨幹部の骨折
第3回	下腿部の損傷 軟部組織損傷
第4回	下腿部の損傷 軟部組織損傷
第5回	足関節部の損傷 解剖と機能 下腿遠位部の骨折
第6回	足関節部の損傷 下腿遠位部の骨折 足根骨部の骨折
第7回	足関節部の損傷 足根骨部の骨折 足関節部の脱臼
第8回	中間テスト 認定実技対策 アキレス腱クラメル副子固定
第9回	足関節部の損傷 軟部組織損傷 認定実技対策 足関節のテーピング
第10回	足関節部の損傷 軟部組織損傷 認定実技対策 足関節のテーピング
第11回	足・趾部の損傷 解剖と機能 足根骨の骨折 中足骨の骨折
第12回	足・趾部の損傷 趾骨の骨折 足根骨部の脱臼と軟部組織損傷
第13回	足・趾部の損傷 中足趾節関節, 趾節間関節の脱臼 足・趾部の軟部組織損傷
第14回	足・趾部の損傷 足・趾部の軟部組織損傷
第15回	定期テスト

		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復学 各論VA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することができる。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回数	授業計画
第1回	体幹 総論
第2回	体幹 頭部・顔面部
第3回	体幹 頸部
第4回	体幹 頸部
第5回	体幹 頸部・胸部
第6回	体幹 胸部・腰部
第7回	体幹 腰部
第8回	中間復習
第9回	下肢 総論
第10回	下肢 骨盤部・股関節部
第11回	下肢 股関節部
第12回	下肢 股関節部
第13回	下肢 股関節部
第14回	下肢 大腿部
第15回	総復習

		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復学 各論VB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することができる。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回数	授業計画
第1回	下肢 大腿部
第2回	下肢 大腿部
第3回	下肢 大腿部
第4回	下肢 下腿部
第5回	下肢 下腿部
第6回	下肢 下腿部
第7回	中間復習
第8回	下肢 足部
第9回	下肢 足部
第10回	下肢 足部・足趾部
第11回	下肢 足部・足趾部
第12回	体幹の総復習
第13回	下肢の総復習①
第14回	下肢の総復習②
第15回	下肢の総復習③

		対象学年	3年生	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論VI	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有	時間数	60
学修内容	上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生机序、検査法、治療法を学修する。				
到達目標	患者の症状から損傷部位を考察することができる。 各損傷の注意すべき合併症が説明できる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 柔道整復学・実技編（南江堂）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第1回	鎖骨部の損傷 総論	第16回	上腕骨外顆骨折
第2回	肩関節の損傷 総論	第17回	上腕骨内側上顆骨折
第3回	上腕部の損傷 総論	第18回	橈骨近位端骨折
第4回	肘関節部の損傷 総論	第19回	肘関節脱臼、肘内障
第5回	前腕部の損傷 総論	第20回	肘関節の軟部組織損傷
第6回	手関節部の損傷 総論	第21回	前腕骨骨幹部骨折
第7回	手・指の損傷 総論	第22回	前腕の軟部組織損傷
第8回	鎖骨骨折	第23回	橈骨遠位端骨折
第9回	肩鎖関節脱臼	第24回	手根骨骨折
第10回	肩甲骨骨折	第25回	手関節部の脱臼
第11回	上腕骨外科頸骨折	第26回	手関節部の軟部組織損傷
第12回	肩関節脱臼	第27回	鎖骨部の損傷、肩関節部の損傷
第13回	肩部の軟部組織損傷	第28回	上腕部の損傷 肘関節部の損傷
第14回	上腕骨骨幹部骨折	第29回	前腕部の損傷 手関節部の損傷
第15回	上腕骨顆上骨折	第30回	手・指の損傷



		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復学 演習ⅢA	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	遠山治孝	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	1年2年で学習してきた人体の生理学的機能を総合的に理解する。柔道整復師に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	柔道整復師に必要な生理学系の知識を総合的に習得する。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	生理学（南江堂） 人体の正常構造と機能 標準生理学				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション 問題演習
第2回	呼吸の生理学：呼吸器の構造・換気・酸素運搬・二酸化炭素運搬・呼吸の調節①
第3回	呼吸の生理学：呼吸器の構造・換気・酸素運搬・二酸化炭素運搬・呼吸の調節②
第4回	代謝の生理学：ビタミン・中間代謝・エネルギー代謝①
第5回	代謝の生理学：ビタミン・中間代謝・エネルギー代謝②
第6回	体温の生理学：体温の変動・熱放散・熱産生①
第7回	体温の生理学：体温の変動・熱放散・熱産生②
第8回	泌尿器の生理学：腎臓の作用・クリアランス・糸球体濾過・尿細管の再吸収・排尿①
第9回	泌尿器の生理学：腎臓の作用・クリアランス・糸球体濾過・尿細管の再吸収・排尿②
第10回	泌尿器の生理学：腎臓の作用・クリアランス・糸球体濾過・尿細管の再吸収・排尿③
第11回	泌尿器の生理学：腎臓の作用・クリアランス・糸球体濾過・尿細管の再吸収・排尿①
第12回	生殖器の生理学：染色体・性分化・男性生殖器・性周期・妊娠・分娩・乳汁分泌①
第13回	生殖器の生理学：染色体・性分化・男性生殖器・性周期・妊娠・分娩・乳汁分泌②
第14回	内分泌の生理学：一般的性質・視床下部下垂体系①
第15回	内分泌の生理学：一般的性質・視床下部下垂体系②

		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復学 演習ⅢB	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	遠山治孝	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	1年2年で学習してきた人体の生理学的機能を総合的に理解する。柔道整復師に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	柔道整復師に必要な生理学系の知識を総合的に習得する。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	生理学（南江堂） 人体の正常構造と機能 標準生理学				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回数	授業計画
第1回	内分泌の生理学：甲状腺・副腎・膵臓のホルモン①
第2回	内分泌の生理学：甲状腺・副腎・膵臓のホルモン②
第3回	骨の生理学：骨形成と成長・カルシウム代謝・骨に対するホルモン①
第4回	骨の生理学：骨形成と成長・カルシウム代謝・骨に対するホルモン②
第5回	筋の生理学：骨格筋の構造・筋収縮の仕組み①
第6回	骨格筋の構造・筋収縮の仕組み②
第7回	骨格筋・心筋・平滑筋の比較①
第8回	神経系の生理学：膜電位・興奮の伝導と伝達・自律神経の特徴①
第9回	神経系の生理学：膜電位・興奮の伝導と伝達・自律神経の特徴②
第10回	感覚の生理学：感覚の種類と特徴・特殊感覚①
第11回	感覚の生理学：感覚の種類と特徴・特殊感覚②
第12回	血液の生理学：血漿蛋白・赤血球・白血球
第13回	体液の生理学：アシドーシス・アルカローシス
第14回	国家試験練習問題
第15回	国家試験練習問題

		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 演習Ⅳ	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	整形外科学、運動学、リハビリテーション医学の各教科を復習し、国家試験合格の一助とする。				
到達目標	一般問題 60%以上の得点力を身につけさせる。また、解剖学、生理学、柔道整復学などの他教科とリンクした勉強方法を習得させる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「運動学」医歯薬出版株式会社 「整形外科学」監修：南江堂 「リハビリテーション医学」監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	整形外科学①
第2回	整形外科学②
第3回	整形外科学③
第4回	整形外科学④
第5回	整形外科学⑤
第6回	整形外科学⑥
第7回	整形外科学⑦
第8回	整形外科学⑧
第9回	リハビリテーション医学①
第10回	リハビリテーション医学②
第11回	リハビリテーション医学③
第12回	運動学①
第13回	運動学②
第14回	運動学③
第15回	運動学④

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	物理療法	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○有・無	時間数	15
学修内容	・実際の現場で行われる物理療法の知識を習得し、疾病に合わせた物理療法の選択や、アプローチ方法を習得する。				
到達目標	・物理療法の効果を患者に説明できるようにする。 ・目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期テスト100%				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂6版 (南江堂) 最新物理療法の臨床適応 (文光堂) 自校にある物理療法機器				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第1回	物理療法の分類・安全対策
第2回	痛みの発生メカニズム
第3回	低周波電気刺激療法 (効果・使用上の注意)
第4回	中周波電流療法 (効果・使用上の注意)
第5回	温熱療法 (適応と効果・使用上の注意と禁忌)
第6回	変換熱療法 (適応と効果・使用上の注意と禁忌)
第7回	寒冷療法 (適応と効果・使用上の注意と禁忌)
第8回	牽引療法 (適応と効果・使用上の注意と禁忌)
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	臨床的判定	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	青木茂康	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復術の適応の判断に必要な外傷に類似する疾患と、外傷の危険な兆候の基礎知識を習得する。 様々な医用画像機器の基本的な原理と、画像の特性や判断における要点を習得する。				
到達目標	臨床所見から施術の適否を的確に判断することができる。 各画像の特徴を理解し説明することができる。 超音波画像装置の基本的な操作ができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20%				
使用教材	施術の適応と医用画像の理解（：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂）				
留意点	講義内容が正しく理解されているか確認するため、講義内で小テストを実施する。 小テストは評価に含まれるため、出席を常とするよう注意する。				

回数	授業計画
第1回	授業内容、評価方法説明、柔道整復術の適否
第2回	損傷に類似した症状を示す疾患
第3回	血流障害を伴う損傷
第4回	末梢神経損傷を伴う損傷
第5回	脱臼骨折・病的骨折および脱臼
第6回	外出血を伴う損傷
第7回	意識障害を伴う損傷
第8回	脊髄損傷のある損傷
第9回	呼吸運動障害を伴う損傷
第10回	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷
第11回	医用画像の理解 放射線
第12回	X線 CT・磁気共鳴検査
第13回	超音波画像装置
第14回	超音波画像装置 実技
第15回	超音波画像装置 実技

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復 実技 I A	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	福岡 治 葛谷 壽彦	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な包帯固定術・後療法の基礎的知識と技術を習得させる。				
到達目標	上肢・下肢の基本包帯法の名称と巻き方を理解し、説明することができる。 各部位に適切な包帯を手際よくきれいに巻くことができる。				
成績評価	実技試験 70% 出席点 20% 服装・授業態度 10%				
使用教材	包帯固定学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	医療人としてふさわしい身だしなみ、態度を身につけてもらうため学校指定の白衣と上履きの着用を厳しく指導する。 包帯を巻く練習回数が重要であり、授業以外でも学生同士で積極的に練習し、また自宅などで家族の体を借りて反復練習するよう指導する。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション 基本包帯法
第 2 回	手部麦穂帯
第 3 回	前腕部折転帯
第 4 回	肘部亀甲帯（離開、集合） 上腕部折転帯
第 5 回	上肢基本包帯法復習
第 6 回	上肢基本包帯法復習
第 7 回	上肢の後療法
第 8 回	肩関節基本包帯法
第 9 回	肩関節麦穂帯
第 10 回	肩関節麦穂帯
第 11 回	肩関節の後療法
第 12 回	足部麦穂帯 踵部亀甲帯
第 13 回	下腿部折転帯
第 14 回	膝関節亀甲帯 大腿部折転帯
第 15 回	下肢の後療法

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復 実技 IB	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	福岡 治 葛谷 壽彦	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な包帯固定術・後療法の基礎的知識と技術を習得させる。				
到達目標	金属副子を用いた上肢・下肢の固定ができる。 冠名包帯法の名称と巻き方を理解し、説明することができる。				
成績評価	実技試験 70% 出席点 20% 服装・授業態度 10%				
使用教材	包帯固定学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	医療人としてふさわしい身だしなみ、態度を身につけてもらうため学校指定の白衣と上履きの着用を厳しく指導する。 包帯を巻く練習回数が重要であり、授業以外でも学生同士で積極的に練習し、また自宅などで家族の体を借りて反復練習するよう指導する。				

回 数	授業計画
第 1 回	上肢の副子固定
第 2 回	上肢の副子固定
第 3 回	上肢の副子固定
第 4 回	下肢の副子固定
第 5 回	下肢の副子固定
第 6 回	下肢の副子固定
第 7 回	下肢の後療法
第 8 回	デゾー包帯、ヴェルポー包帯
第 9 回	デゾー包帯、ジュール包帯
第 10 回	冠名包帯法復習
第 11 回	冠名包帯法復習
第 12 回	肩甲帯部の後療法
第 13 回	体幹部の後療法
第 14 回	手指・足趾の包帯固定
第 15 回	晒固定（胸部、腰部）

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	柔道整復 実技ⅡA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	遠山 治孝 爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する指導方法を習得する。				
到達目標	・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。				
成績評価	定期試験100%				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂）</li> <li>・ストレングス&amp;コンディショニング（大修館書店）</li> </ul>				
留意点	身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。				

回数	授業計画
第1回	運動指導の役割
第2回	運動指導の効果測定と評価
第3回	運動指導のPDCA サイクル
第4回	運動指導の注意事項及び計画と実践
第5回	運動指導の注意事項及び計画と実践
第6回	対象者の基礎的状态に対応した運動指導
第7回	ウォームアップとクールダウンについて
第8回	ウォームアップとクールダウンの実践
第9回	運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践）
第10回	運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践）
第11回	運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践）
第12回	運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践）
第13回	運動指導の実践（スピード向上を目的とした運動計画と実践）
第14回	運動指導の実践（スピード向上を目的とした運動計画と実践）
第15回	運動指導を行うにあたってのリスク管理



# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	柔道整復 実技ⅡB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	遠山 治孝 爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する指導方法を習得する。				
到達目標	・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。				
成績評価	定期試験100%				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂）</li> <li>・ストレングス&amp;コンディショニング（大修館書店）</li> </ul>				
留意点	身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。				

回数	授業計画
第1回	運動指導の為の倫理及び活用実践
第2回	傷病者評価
第3回	BLS (Basic Life Support)
第4回	固定法（包帯・テーピング等）
第5回	固定法（包帯・テーピング等）
第6回	固定法（包帯・テーピング等）
第7回	固定法（包帯・テーピング等）
第8回	固定法（包帯・テーピング等）
第9回	固定法（包帯・テーピング等）
第10回	固定法（包帯・テーピング等）
第11回	固定法（包帯・テーピング等）
第12回	固定法（包帯・テーピング等）
第13回	固定法（包帯・テーピング等）
第14回	固定法（包帯・テーピング等）
第15回	総復習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道整復 実技ⅢA	科目の別	実習	単位数	1単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30時間
学修内容	職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する				
到達目標	柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる				
成績評価	授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	職業としての柔道整復術を考える
第2回	専門職としての柔道整復術を考える
第3回	健康保険、労災保険、自賠責保険、自由診療について
第4回	接骨院の業務内容概説
第5回	予診表について（中和式、英語版を参考に）
第6回	診察の流れと施術録の記入について
第7回	紹介状、依頼状、情報提供について
第8回	問診（医療面接）について
第9回	主訴、現病歴、既往歴について
第10回	服薬、アレルギー歴、家族歴、生活歴について
第11回	疼痛の問診について①
第12回	疼痛の問診について②
第13回	痺れの間診について①
第14回	痺れの間診について②
第15回	総合復習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔道整復 実技ⅢB	科目の別	実習	単位数	1単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30時間
学修内容	職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する				
到達目標	柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる				
成績評価	授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	徒手検査法について
第2回	症状の評価について
第3回	骨、骨格筋、神経症状の差異について
第4回	ニュートラルポジションの理解
第5回	下半身の評価①
第6回	下半身の評価②
第7回	上半身の評価①
第8回	上半身の評価②
第9回	指導管理について（姿勢・セルフストレッチ）
第10回	テーピング実技①
第11回	テーピング実技②
第12回	パートナーストレッチ①
第13回	パートナーストレッチ②
第14回	総合復習
第15回	総合復習

# 2020年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復 実技IVA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する施術方法を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の病態に合わせた施術を選択できるようにする。</li> <li>・主に上肢に対する施術をできるようにする。</li> </ul>				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング (文光堂) 改訂第2版整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 (MEDICAL VIEW) 結果の出せる整形外科理学療法 (MEDICAL VIEW) オステオパシーアトラス (医道の日本)				
留意点	常に感覚を集中させ、治療家としての感性を感じてもらえるように意識する。 身体に触れる機会が多くなるため、事故防止に留意する。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス
第2回	触診 (トリガーポイント①)
第3回	触診 (トリガーポイント②)
第4回	触診 (ジョイントモビライゼーション①)
第5回	触診 (ジョイントモビライゼーション②)
第6回	胸鎖関節・肩鎖関節に対する運動療法
第7回	胸鎖関節・肩鎖関節に対する手技療法
第8回	胸鎖関節・肩鎖関節に対するテーピング療法
第9回	肩甲胸郭関節に対する運動療法
第10回	肩甲胸郭関節に対する手技療法
第11回	肩甲胸郭関節に対するテーピング療法
第12回	肩甲上腕関節に対する運動療法
第13回	肩甲上腕関節に対する手技療法
第14回	肩甲上腕関節に対するテーピング療法
第15回	定期テスト

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復 実技IVB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する施術方法を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の病態に合わせた施術を選択できるようにする。</li> <li>・主に上肢に対する施術をできるようにする。</li> </ul>				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング (文光堂) 改訂第2版整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 (MEDICAL VIEW) 結果の出せる整形外科理学療法 (MEDICAL VIEW) オステオパシーアトラス (医道の日本)				
留意点	常に感覚を集中させ、治療家としての感性を感じてもらえるように意識する。 身体に触れる機会が多くなるため、事故防止に留意する。				

回数	授業計画
第1回	肩甲上腕関節に対するアプローチ (野球肩を中心に)
第2回	肘関節に対する運動療法
第3回	肘関節に対する手技療法
第4回	肘関節に対するテーピング療法
第5回	前腕部に対するテーピング療法
第6回	近位・遠位橈尺関節に対する運動療法
第7回	橈骨手根関節に対する運動療法
第8回	橈骨手根関節に対する手技療法
第9回	橈骨手根関節に対するテーピング療法
第10回	ロールプレイング①
第11回	ロールプレイング②
第12回	ロールプレイング③
第13回	ロールプレイング④
第14回	総復習
第15回	定期テスト

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復 実技VA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹、下肢について解剖学、運動学の観点から傷病を把握し検査・治療の必要性を理解する				
到達目標	臨床を想定した場合、患者さんにどうアプローチするかを考え責任ある行動ができるようになる。				
成績評価	実技テスト、小テストにて評価する。 試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	柔道整復学理論編・実技編 (南江堂) 包帯固定学 配布プリント				
留意点	国試においても実技に関する問題、臨床的な問題の比率が増加していることを意識させ実技科目履修への意欲を学生に持ってもらうにする。				

回数	授業計画
第1回	足関節の機能解剖
第2回	足関節の検査法
第3回	小テスト（足関節の機能解剖・検査法）および足関節の機能解剖・検査法の練習
第4回	小テスト（足関節の機能解剖・検査法）および足関節の機能解剖・検査法の練習
第5回	足関節の治療法 1. 包帯固定法
第6回	足関節の治療法 2. テーピング
第7回	足関節の治療法 1. 包帯固定法 2. テーピング
第8回	足関節の治療法 3. ギプス固定法 4. 運動療法
第9回	小テスト（足関節の治療法）および足関節の治療法の練習
第10回	小テスト（足関節の治療法）および足関節の治療法の練習
第11回	膝関節の機能解剖
第12回	膝関節の検査法（触診・エコー）
第13回	膝関節の検査法（十字靭帯・半月板・側副靭帯検査法）
第14回	小テスト（膝関節の機能解剖・検査法）および膝関節の機能解剖・検査法の練習
第15回	小テスト（膝関節の機能解剖・検査法）および膝関節の機能解剖・検査法の練習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復 実技VB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹、下肢について解剖学、運動学の観点から傷病を把握し検査、治療の必要性を理解する				
到達目標	臨床を想定した場合、患者さんにどうアプローチするかを考え責任ある行動ができるようになる。				
成績評価	実技テスト、小テストにて評価する。 試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	柔道整復学理論編・実技編 (南江堂) 包帯固定学 配布プリント				
留意点	国試においても実技に関する問題、臨床的な問題の比率が増加していることを意識させ実技科目履修への意欲を学生に持ってもらうにする。				

回数	授業計画
第1回	膝関節の治療法 1. 包帯固定法
第2回	膝関節の治療法 2. テーピング
第3回	膝関節の治療法 3. 運動療法
第4回	小テスト (膝関節の治療法) および膝関節の治療法の練習
第5回	小テスト (膝関節の治療法) および膝関節の治療法の練習
第6回	腰部の機能解剖
第7回	腰部の検査法 (触診・椎間板ヘルニア検査法)
第8回	股関節の機能解剖
第9回	股関節の検査法 (触診・理学検査法)
第10回	小テスト (腰部・股関節の機能解剖・検査法) および腰部・股関節の検査法の練習
第11回	小テスト (腰部・股関節の機能解剖・検査法) および腰部・股関節の検査法の練習
第12回	腰部・股関節の治療法 (固定法・就寝時や起床時の体位変換)
第13回	腰部・股関節の治療法 (股関節の運動療法)
第14回	小テスト (腰部・股関節の治療法) および腰部股関節の治療方法の練習
第15回	小テスト (腰部・股関節の治療法) および腰部股関節の治療方法の練習

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	臨床入門 I	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で必要となる病態把握をするために必要となる基本的な知識や検査、測定方法を正確に行えるようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学的知識をもとに正確な触察を習得する。</li> <li>・主に上肢の可動域測定・徒手筋力テスト・各種理学的所見（知覚検査や腱反射等）を正確に行えるようにする。</li> </ul>				
成績評価	中間試験 30%（主に医療面接と肩のROM検査と徒手筋力テスト） 定期試験 70%（主に肘・手関節のROM検査と徒手筋力テスト）				
使用教材	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢（MEDICAL VIEW） 理学療法評価学（金原出版）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	上肢長・下肢長・周径測定
第 3 回	肩関節 解剖復習及び触察
第 4 回	可動域測定
第 5 回	徒手筋力テスト
第 6 回	肘関節 解剖復習及び触察
第 7 回	可動域測定
第 8 回	徒手筋力テスト
第 9 回	手関節 解剖復習及び触察
第 10 回	可動域測定
第 11 回	徒手筋力テスト
第 12 回	臨床実習前施術試験説明
第 13 回	臨床実習前施術試験練習
第 14 回	臨床実習前施術試験練習
第 15 回	総復習



# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	臨床入門Ⅱ	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で必要となる病態把握をするために必要となる基本的な知識や検査、測定方法を正確に行えるようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学的知識をもとに正確な触察を習得する。</li> <li>・主に下肢の可動域測定・徒手筋力テスト・各種理学的所見（知覚検査や腱反射等）を正確に行えるようにする。</li> </ul>				
成績評価	中間試験 30%（主に股関節・膝関節のROM検査と徒手筋力テスト） 定期試験 70%（主に足関節・脊柱のROM検査と徒手筋力テスト）				
使用教材	運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢（MEDICAL VIEW） 理学療法評価学（金原出版）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第 1 回	医療面接
第 2 回	医療面接ロールプレイング
第 3 回	股関節 解剖復習及び触察
第 4 回	可動域測定
第 5 回	徒手筋力テスト
第 6 回	膝関節 解剖復習及び触察
第 7 回	可動域測定
第 8 回	徒手筋力テスト
第 9 回	足関節 解剖復習及び触察
第 10 回	可動域測定
第 11 回	徒手筋力テスト
第 12 回	脊柱(体幹) 解剖復習及び触察
第 13 回	可動域測定
第 14 回	徒手筋力テスト
第 15 回	総復習

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	総合実技 IA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	葛谷壽彦	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。				
到達目標	骨折（3種類）の診察及び整復ができる。 脱臼（4種類）の診察及び整復ができる。 軟部組織損傷（9種類）の診察及び検査ができる。				
成績評価	1. 実技試験 70% ; 授業時間内に実施 2. 出席について 20% 3. 服装・態度について 10%				
使用教材	中和式 認定実技マニュアル 授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	Tシャツや短パンなど、必要に応じて着用させる。				

回数	授業計画
第1回	認定実技審査について
第2回	認定実技審査について
第3回	鎖骨定型的骨折
第4回	上腕骨外科頸骨折
第5回	コーレス骨折
第6回	肩鎖関節上方脱臼
第7回	肩関節前方烏口下脱臼
第8回	肘関節後方脱臼
第9回	肘内障
第10回	第3回～9回のまとめ・確認
第11回	肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷
第12回	ハムストリングス損傷、大腿四頭筋打撲
第13回	膝関節（側副靭帯、十字靭帯、半月板）損傷
第14回	下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷
第15回	第11回～14回のまとめ・確認

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	総合実技 I B	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	葛谷壽彦	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。				
到達目標	骨折（3種類）の診察及び整復ができる。 脱臼（4種類）の診察及び整復ができる。 軟部組織損傷（9種類）の診察及び検査ができる。				
成績評価	1. 実技試験 70% ; 授業時間内に実施 2. 出席について 20% 3. 服装・態度について 10%				
使用教材	中和式 認定実技マニュアル 授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	Tシャツや短パンなど、必要に応じて着用させる。				

回 数	授業計画
第 1 回	軟部組織損傷（9種類）の診察・検査について
第 2 回	軟部組織損傷（9種類）の診察・検査について
第 3 回	骨折（3種類）の診察・整復について
第 4 回	骨折（3種類）の診察・整復について
第 5 回	脱臼（4種類）の診察・整復について
第 6 回	脱臼（4種類）の診察・整復について
第 7 回	総復習
第 8 回	総復習
第 9 回	総復習
第 10 回	必修問題対策
第 11 回	必修問題対策
第 12 回	必修問題対策
第 13 回	国家試験関係対策
第 14 回	国家試験関係対策
第 15 回	国家試験関係対策

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	総合実技ⅡA	科目の別	実習	単位数	1単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30時間
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	授業内に行う確認試験にて評価を行う (前期：3回)				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	内容説明 絆創膏固定① 鎖骨骨折
第2回	絆創膏固定② 肩鎖関節脱臼
第3回	シーネ固定① ミッテルドルフ
第4回	シーネ固定② コーレス骨折、肘関節脱臼
第5回	シーネ固定③ アキレス腱、下腿骨幹部
第6回	第1～5回の確認
第7回	アルミ副子固定① ボクサー骨折
第8回	アルミ副子固定② 第2PIP 関節脱臼
第9回	厚紙副子固定① 肋骨骨折、肩関節脱臼
第10回	厚紙副子固定② 足関節捻挫
第11回	第7～10回の確認
第12回	テーピング固定① 膝関節、足関節
第13回	テーピング固定② 足関節
第14回	テーピング固定③
第15回	第12～14回の確認

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I部		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	総合実技ⅡB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	認定実技模試と認定実技審査の結果を元に評価を行う				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第2回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第3回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第4回	絆創膏・テーピング固定練習
第5回	絆創膏・テーピング固定練習
第6回	絆創膏・テーピング固定練習
第7回	認定実技模試前総合復習
第8回	模試反省改善点の確認
第9回	認定実技直前総合復習
第10回	認定実技後振り返り
第11回	国家試験対策
第12回	国家試験対策
第13回	国家試験対策
第14回	国家試験対策
第15回	国家試験対策

# 2021 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	外傷予防	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	青木茂康	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	競技者・高齢者に発生する外傷の特徴と、その予防について学習する。				
到達目標	競技者と高齢者に発生する外傷の特徴を理解し、説明することができる。 外傷を予防するための方法を適切に指導することができる。				
成績評価	定期試験 50% 中間試験 50%				
使用教材	競技者の外傷予防：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復師と機能訓練指導：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	柔整理論の各論で学習した内容が含まれるため、復習して授業に臨むこと。 30 時間の内訳は、「競技者の外傷予防 15 時間」、「高齢者の外傷予防 15 時間」で実施する。				

回 数	授業計画
第 1 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 2 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 3 回	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生原因 外傷の予防対策
第 4 回	競技者の外傷予防 メディカルチェック 評価と判定
第 5 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法
第 6 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法 種目別の外傷予防
第 7 回	競技者の外傷予防 種目別の外傷予防
第 8 回	競技者の外傷予防 成長期の外傷予防、高齢者の外傷予防 高齢者の特徴
第 9 回	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム
第 10 回	高齢者の外傷予防 ロコモティブシンドローム / サルコペニア / フレイル
第 11 回	高齢者の外傷予防 転倒予防
第 12 回	高齢者の外傷予防 機能訓練
第 13 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 14 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 15 回	高齢者の外傷予防 運動と要点

# 2021年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2～3年	学期	通年
科目名	臨床実習	科目の別	実習	単位数	4
担当教員	戸崎素成・遠山治孝・福岡 治・爲房佑輔	実務経験	有	時間数	180
学修内容	学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。				
到達目標	接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。				
成績評価	校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3：1とする。				
使用教材	臨床実習の手引き				
留意点	臨床実習4単位180時間のうち、1単位45時間分を校外臨床実習として行う。 校外臨床実習のうち、1単位45時間を2年生学年末休業中と3年生夏期休業中に実施する。				

## 授業計画（学修内容）

### 基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施
- 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

### 患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

### 施術録作成・症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

### 保険請求（受療委任の手続き）

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施